

政を問う



五位塚 剛 議員

フラワーパーク建設は 中止を

市長／胡摩地区で進めていく

五位塚議員 三月議会で胡摩地域を限定した予算が賛成多数で可決されたが、胡摩地域で事業を進める考えか。

池田市長 当初予算に編成したので、そのまま胡摩地域での整備を進めていく。

問 私は5月と6月に



胡摩地域での独自ハエ調査

弁当をひろげて環境調査をした。大きなハエや小バエなど多数いた。市当局が調査した結果では一ヶ所は5日間で868匹、便所バチが23匹、また、2日間で508匹となっている。この結果をどう考えるか。

市長 市の職員がハエ取り紙で環境調査を行ったが、そんなにハエが多いとも少ないとも思わない。

問 パークゴルフや花を楽しんだ後、弁当をひろげて食べる時ハ

エや便所バチがたくさん群がるという状況では、お客さんは来ないのではないか。

赤字を出すおそれがあるので、建設を中止すべきではないか。

市長 弁当をひろげて調査するのは、ハエを呼ぶためにまき餌をすることにになるので、おかしいではないか。

曾於市は畜産のまちであるから、ハエがいるのは当然である。

弁当はクラブハウスで食べれば良いと思う。

曾於市の人口増対策を求める

問 人口が合併時から4086人減り4万人を切る状況になっている。どう認識しているか。

市長 要因として、自然動態の死亡による減少が大きいと考える。

問 仕事、結婚、子育て



元気に仲良く深川幼児学級と学童の子どもたち

てなど総合的な人口増対策を明確に打ち出すべきではないか。

市長 企業誘致、子どもの医療費の無料化など、また、窓口一本化も検討したい。

中学校統廃合後の跡地利用は

問 南之郷中、財部南中、財部北中の跡地利用はどうするのか。

市長 南之郷中は、介護老人福祉施設を進めていきたい。

財部南・財部北中は

民間業者などへ無償貸与する方向で募集をはじめた。

健康診断の進め方を求める

問 末吉に健康増進センターが完成したら、健康診断の実施場所を一本化する考えか。

市長 健康増進センター建設後は、幼児健康診査以外は従来どおり各町巡回方式で実施する。

また、幼児健康診査は毎月できないか検討中である。



迫 杉雄 議員

国民文化祭及び国民 体育大会への対応は

市長／誘致に努めたい

一般質問
9議員登壇

市



改修要望のある弥五郎の里調理場の床

迫議員 曾於市食育推進基本計画は市民にどのような浸透しているか、食生活改善推進員の活動状況はどうであるか。

池田市長 次世代を担う幼稚園、保育園、小・中学校の子ども達への農作業の体験や、学校給食を通じて理解を深めている。食生活改善推進員は現在57名で、各種行事に延べ88

回、食育の一環で各調理実習に7回、いきいきサロンに11回、その他イベントに5回延べ111回の行事に推進員は活動をしている。

問 弥五郎の里の調理場の改修をすべきだが、特に床がべたつき危険と聞いている。早急に対応すべきではないか。

市長 現場を見て調査し検討する。

問 本市の食文化の向上を目指すため、平成27年に県が開催する「国民文化祭」において、本市も食文化の部門で誘致する考えはないか。

市長 食の部門で農産物振興や観光にもつなげられることから、ぜひ参加できるように努力する。



曾於市からオリンピック選手を！

体育・スポーツの 振興について

問 本県では第75回国民体育大会開催に向けての対応が始まった。本市においては競技力の向上や選手の発掘及び育成についての考えはどうであるか。

教育長 今年度から『競技力向上推進総合計画』を立てて、取り組む競技団体の組織の強化や競技力の向上に

努め、新しい選手の発掘、育成を進める。

問 本市において、何か国体種目を誘致する考えはないか。

市長 国民体育大会における競技種目の誘致は、市民のスポーツに対する関心を高め、競技力を向上させる良い機会になる。曾於市を全国にアピールし、加えて経済効果も期待できる。本市においても市民の皆様がなじみやすい種目の誘致に努めたい。

財部駅を 特急・急行停車駅に

市長／あらゆる努力をしていきたい



八木 秋博 議員

八木議員 財部駅の利用状況及び利用促進は。

池田市長 一日当たりの乗降者数は平成22年、23年度共に130人程である。

利用促進活動は、地元地域おこしグループの周遊旅行企画や駅前コンサートなどのイベントを開催し、親しまれる駅づくりに努めている。



財部駅を素通りするハイパーサルーン

問 官民あがての利用促進と、特急・急行停車駅の誘致策は。

市長 曾於市観光特産開発センターが企画している、曾於市魅力発見ツアーや環霧島会議等、いろいろな方面から努力していく。

問 J R九州が各地で観光・食・農の図式で農業法人を立ち上げ、今後も相手からの申し出を待つということであるがアプローチしてはどうか。

市長 初耳であるが今後勉強して曾於市に活力を頂くためにも、財部駅を有効活用すべくいろいろご提案を申し上げたい。

畜産業に第三者継承の奨励を

問 家畜飼養戸数の推移は。

市長 変動著しいのは肉用牛繁殖農家で、平成23年度で188戸の減、頭数で1043頭の減となっている。

問 畜産業新規就農者の状況は。(後継者・新規参入者)

市長 平成22年、23年調査で後継者は肉用牛18名、ブロイラー6名、養豚5名、新規参入者は肉用牛繁殖農家のみ1名である。

問 総合支援事業(青年就農給付金制度)の概要と申請状況は。

市長 農業再生に向けて農水省が創設した平成24年度からの新規事業で全額国費。都道府県や市町村が申請者



第3者継承が待たれ出番を待つパドック牛舎

の取りまとめや給付などの実務を担うもので、原則45歳未満の親元への就農を除く新規就農者で研修期間(2年以上)の準備型と経営開始型の最長5年の合せて最大で7年間、毎年150万円給付される。現在、準備型2名、経営開始型6名の申請状況である。

問 後継者のいない農業経営を家族以外の新規就農者に継承させる第3者継承が、減り続ける畜産業には画期的と思われるが取り組みは。

市長 農地・施設・機械等を一括取得し、いち早く経営を開始できるが、資金力問題等もあり、国の新規事業の青年就農給付金と共に、市の支援事業も見直すべき時にきたと思う。

フラワーパークは中止を

市長／中止は考えていない



徳峰 一成 議員

徳峰議員

市の調査で

は、胡摩地区はハエなどが多い。弁当をひろげられる場所とはいえない。

池田市長

弁当をひろ

げると、どこでもハエは集まる。ハエが多いか、少ないかが課題である。

市のハエ等調査結果

調査日 調査箇所	5/17～5/21 (5日間)	5/23～5/24 (2日間)
①	137匹	56匹
②	314匹	101匹
③	903匹	512匹
④	105匹	64匹
⑤	202匹	55匹
⑥	109匹	46匹
⑦	32匹	35匹
⑧	267匹	106匹

※縦 36cm × 横 60cm のハエ取り紙を使用

※丸数字は、建設予定地の調査箇所

※アブ、ハエ、コバエ、蚊などの合計数

問 それであるなら、今後もハエの調査が必要ではないか。

市長 今後、ハエの調査をする考えはない。

問 同じく市の調査では、予定地周辺の二人に一人は、日常悪臭を感じている。この一点からいって、胡摩地区は建設に不適地ではないか。

市長 調査は考えていない。

問 このまま建設すると、取り返しのつかないことになりかねない悪臭についても、もっと調査すべきではないか。

市長 においては個人差がある。フラワー公園では、花においもする。

問 また、市の維持管理費の考えはあまいのでは。

たとえば、パークゴルフの年間利用者を3万7500人とみて収支を立てている。市内のパークゴルフ愛好者は何人か。

市長 その数はつかんでいない。

財部温泉、労働条件の確保を

問 一般質問で再三にわたり要求していた従業員の賞与未支給問題は解決したが、その内訳は。

市長 会社と市の負担で5月31日、総額309万円を全員に支給した。

問 会社は、市と交わした協定書どおりに賃金や残業代を支給していない問題が、あらたにおきているのではないか。

市長 そのことでは、会社には回答を求めている。

問 市は責任をもつて対処されたい。

市長 指摘された点は、契約の解除を含め対応していきたい。

指定管理団体の労働条件の確保を

問 指定管理された45施設で働く従業員数は。

市長 正規36人、契約92人、アルバイト60人

である。

問 身分が不安定な従業員が多い。会社の都合で、人件費のカットや解雇されないよう、市は労働条件をしつかりと守るべきではないか。

市長 これまで従業員の利益がそこなわれた例があった点はまずかったと反省している。雇用と労働条件を守ることを、市の基本としたい。



入居者の要望に応える職員（清寿園）

誇れる曾於市の創造に 小・中学校の学力向上を

市長／向上させていきたい



土屋 健一 議員

土屋議員

子ども達の学力向上は家族の願いであり、地域の誇りとなる。市内小・中学校の学力が国・県の平均に及ばない原因を、どのように分析されているか。

また、学力向上対策協議会の全容について説明されたい。

植村教育長

平成23年度は中学校一年生が国語・社会・数学・英語が県平均を上回ったが、理科が及ばなかった。

中学校二年生では社

会・理科が上回った。

小学校五年生は7校が県平均を上回ったが、全体では及ばなかった。原因は学習内容が定着していないこと、教師の指導力が不足していること、家庭での教育力不足が挙げられる。

基本的な生活習慣や学習のしつけが大切である。

学力向上対策協議会は各小・中学校と各高校の担当者、校長4名、教頭4名、市教育委員会学校教育課3名で構成され、年4回開催し「学習のしつけ」など共通実践事項を部会ごとに定め協議している。他に学力向上対策協議会が主催する研修会として、中学三年生の希望者を募り「夢」実現チャレンジ講座や、

教師力向上講座を開催している。

問 ラサール高校や鶴丸高校など有名進学校への進学者は何か。また国公立大学の在籍状況はどうか。より優秀な生徒を育成できないのか。

教育長

過去4年間、市内中学校からラサール高校、鶴丸高校への進学はない。

市内3高校から鹿児島大学、鹿屋体育大学、長崎大学、宮崎大学などへ10名程度進学している。少しでも学力を向上させるよう努力する。

学校給食について

問 学校給食の概要、給食費の滞納状況、地元食材利用状況はどうか。

教育長

現在、大隅と財部の給食センター、深川共同調理場、自校方式の末吉小・末吉



新鮮野菜の並ぶきたん市場（財部町）

中の計5施設で、1日3150食を調理している。

来年度、深川共同調理場が財部の給食センターへ統合される。

また、昨年度の給食費の滞納者は48名で、154万円の未納額となっている。給食費の徴収には苦労が多い。

地元産の食材については、米・野菜・肉・卵等を活用しているが、それぞれの調理場で地

元産を利用し献立にしている。のどかいち「農土家市」、「四季祭市場」、「きたん市場」の各直売所や生産者から仕入れている。児童生徒に、生産者の顔が見える「安全・安心な給食」を心がけている。

がけ地近接等危険住宅移転 条例の見直しを

市長／検討していく



海野 隆平 議員

海野議員 曾於市内がけ地近接の危険箇所について旧町ごとに示せ。

池田市長 曾於市内がけ地近接危険箇所にある危険住宅については、末吉町が139戸、大隅町が81戸、財部町が94

戸の計314戸となる。

問 この条例の合併前後の利用状況について示せ。

市長 昭和47年からの実績となるが、合併前に484戸の移転があり、合併以後には2戸の移転があった。

問 がけ地近接等危険住宅については、いつ調査された結果であるのか。



がけ地近接危険箇所住宅移転後の更地

市長 危険住宅314戸については、平成19年度調査に基づいている。この調査は、ほぼ5年に一回実施しており、今年度に調査を予定している。

問 この条例の危険箇所については、建築基準法施行前（昭和46年8月31日以前）の建築物が対象となっているかと理解しているのか。

市長 そのとおりである。

問 この事業の補助金助成について借入資金の利子補給だけでなく、市単独の特別枠による助成は考えられないか。

市長 調査結果をみて今後検討していく。

閉校になった中学校の校旗等の保管は

問 閉校になった中学校の校旗やトロフィー等放置されたままである。きちんと保存すべきではないのか。

植村教育長 現在はまだ閉校となった学校に置いたままである。今年の夏休みに金庫や備品等を移動する予定である。その際、貴重な校旗等は統合した中学校に保管する計画である。大切なものなので、統合地区別協議会の意見を聞きながら保管する予定である。

問 地域や学校の宝といふべきこのような財産について、どのような管理保存を考えているか。

教育長 教育委員会としては、将来を見据えて統合された中学校で保管するもの、地域に残した方がよいもの、教育委員会で保管しなければならないもの等に区分して、地区別協議会の意見や統合した中学校長等の意見を聞

き、しっかりと管理していきたい。

問 かつて末吉町内には、深川中学校、諏訪中学校、岩北中学校とあったが、学校の校旗や思い出となるものはどこにもないがどのように保存されているのか。

教育長 今後調査していきたい。



財部中に保管してある旧財部南中・旧財部北中の校旗

パークゴルフ・フラワーパーク・ グラウンドゴルフ場建設の取り組みは

市長／環境調査をした



大津 亮二 議員

大津議員 3月議会後の
の取り組み状況について
報告されたい。



ハ工調査実施中（企画課提供）

池田市長 環境調査を
実施し、空気調査につ
いては基準値を超える
場所はなかった。悪臭
については、個人差が
あると思う。また、ハ
工等の調査では1箇所
高いところがあったが、
堆肥の放置の後が見つ
かった。

問 現段階までの調査
結果をどのように評価
されているか。

市長 調査の結果、来
場される方にとって、
不快感を与えるほどの
ものではないと思つて
おり、現段階では胡摩
地域での整備を考えて
いる。

問 高之峰にならな
かった最大の要因は何か。

市長 地形的に高低差
があり、事業費が膨ら
むことが要因である。

問 それぞれの収支計
画を示されたい。

市長 パークゴルフ場
は、収入約1870万
円、支出約2220万
円、フラワーパーク
は、収入約3400万
円、支出約3620万
円、グラウンドゴルフ
場は、収入約120万
円、支出約130万円
を計画している。

問 国・県の何らかの
補助事業はないのか。

市長 県への相談はし
ているが、場所が決定
次第、進捗状況等をみ
ながら、県へ要望したい。

中学校統合後の状況 について

問 新年度になり地区
別協議会が開催されて
いないが、地域の声は
聞かないのか。

市長 地域の声は当然
聞くが、スケジュール
上第1回目の開催が7
月であり準備中である。

問 南之郷中学校の跡
地計画の概要はどうか。

市長 平成25年度に
地域密着型の小規模特
別養護老人ホーム29床、
認知症グループホーム
18床の両方か、いずれ
か一施設を整備する予
定である。

一般公募し9月末に



跡地利用が待たれる旧南之郷中

事業者を決定する予定
である。現在5件の問
い合わせがある。

問 財部南・北の2中
学校の状況はどうか。

市長 現在、数件の問
い合わせはあったが、
公募締め切り後に詳細
を把握できると思う。

過疎地域への定住対 策について

問 現在の定住対策と
は別に過疎地域へ定住
対策をとるべきでは。

市長 地方部への定住
対策に努め、何か対策
ができないか考えたい。

合併特例債の今後の計画は

市長／整備事業等や基金積み立てを計画している



久長 登良男 議員

久長議員 合併特例債の事業計画・財政計画での活用は。

池田市長 合併市町村の一体性の速やかな確立を図るとともに、合併市町村の均衡ある発展に資する為に行う公

共的施設の整備事業に要する経費について、合併後、10年間借り入れ出来ることが認められている。

また、地域振興等の為のソフト事業分として基金積み立てを行う借り入れも認められている。

問 本市の借り入れ限度額は。

市長 公共的施設の整備については、171億8170万円となっている。

問 実績と今後の計画は。

市長 平成23年度までに64億7430万円を借り入れている。平成24年度は16億9420万円を予算化しているので、今後の借り入れ可能額は90億1320万円である。また、基金積み立てへの合併特例債借り入れの限度額は19億5100万円となっており、平成23年度までに13億



設置されたクリーンエネルギーの太陽光発電 (財部中)

3000万円借り入れており、平成24年度は1億9000万円を予算化しているので、今後借り入れ可能額は4億3100万円である。

問 今後の活用について。

市長 市道等の整備や小中学校の校舎等整備事業、フラワーパーク・パークゴルフ場等整備事業、曾於北部地区国営畑地かんがい排水事業負担金等に利用する計画である。

再生可能エネルギーの取り組みについて

問 エネルギー対策についての認識について。

市長 東日本大震災による福島原発事故以来、地域の人たちの心境を察するときに複雑の思いがある。

再生可能なエネルギーは太陽光発電・風力発電・水力発電等の継続的に利用できるエネルギーがあるものと承知している。

問 本市の取り組みと今後の考え方は。

市長 市役所庁舎、及び学校に太陽光発電を設置している。市民生活に最も身近な太陽光発電の普及について、今後検討をしたい。現在、農業用水小水力発電関係の問い合わせがきている。

EM菌の活用について

問 学校プール投入についての取り組みは考

えられないか。

教育長 市内の小・中学校23校にプールが整備されており、毎年6月から9月にかけて水泳の授業等が実施されている。児童生徒の減少によりプール掃除が大変である。EM菌投入によりプール掃除が効率的になったとの声を聞いている。今後学校プールのEM菌投入については、効果の動向を調査しながら、研究をしていきたい。



児童によるプールへのEM菌投入

市道笠木・かんじん松線及び土成・柳井谷線の取り組みは

市長／早期整備に努める



坂口 幸夫 議員

坂口議員 両路線の総延長に対して、工事の進捗状況は。

池田市長 笠木・かんじん松線が、総延長3598mに対し整備済みの延長が676m、整備率約19%で、土成・柳井谷線は、総延長4117mに対し整備済みの延長873mで整備率約21%である。



早期改良が望まれる市道笠木・かんじん松線

問 市長は両路線の現状をどのように認識されているのか。

市長 笠木・かんじん松線については、現在整備中の笠木から市吉の区間が特に路面の状況も悪く、この区間の整備を急ぐべきだと考えている。

土成・柳井谷線については、幅員の狭い箇所、見通しの悪い箇所を優先しながら年次的に整備を進めたい。

問 土成・柳井谷線にある上馬渡橋が老朽化し、道路改良等で幅員も違い大変危険であるが、今後の考えは。

市長 他の橋梁整備等も勘案しながら早急に検討する。

問 地域住民は、両路線の早期完成へ大変な熱い思いがある。
市長の取り組み、考えは。

市長 笠木・かんじん松線については、社会资本整備総合交付金事業を最大限に活用し、引き続き市吉までの残区間の早期完成に向けて努力する。

土成・柳井谷線についても、総合振興計画、過疎計画等をふまえ早期整備に努める。

末吉高等自動車学校への認識について

問 末吉高等自動車学校に市長は、どのような思いを持たれているのか。

市長 免許取得者や高齢者の免許更新受講において、なくてはならない企業と考えている。

問 仮に閉鎖された場合、市にどのような影響が考えられるか。

市長 高齢者の免許更新が市内でできなくなり、利便性や企業とし

での雇用に影響があると思う。

問 市としての活性化への助成策は。

市長 企業努力をお願いしながら地元企業の大切さを訴えたい。

教育行政について

問 市内公立3高校への受験者数は、市内から何名か。
また、合否はどうであったか。

教育長 末吉中と大隅中が柔道、財部中が剣道である。

1,2年生が対象となる。完全実施に当たっては、指導体制を整え、安全対策には万全を期したい。

植村教育長 合格者は、財部高校25名、末吉高校72名、岩川高校30名である。不合格者は、財部高校2名、末吉高校5名、岩川高校はゼロとなっている。

問 各中学校での武道必修への取り組みは。



末吉高等自動車学校